

想いと技術を、次代へ繋ぐ

■お問い合わせ
総務企画課 企画調整係 ☎4-2511 内線227
しもかわ地域振興機構(通称・しもかわ財団) ☎4-3511

全国的に後継者不足が課題となる中、下川町では持続可能な地域の実現を目指し、地域の産業を次代へ繋ぐため、独自の事業承継支援を行っています。今回ご紹介するのは、町の支援制度を活用し、昨年6月に前事業者の想いを受け継いだ「エムテック」の峯本さん。下川を支える農業・林業、そして道路工事や除雪などの現場で欠かせない重機や農機具が壊れたとき、誰がそれを直すのか。峯本さんが手がける仕事は、地域の基幹産業を支え、町の安心を守る大切な役割を担っています。

1. 札幌から下川へ、50代の再始動

峯本さんは学生時代まで名寄で過ごし、卒業後は札幌の製鉄会社に就職しました。橋梁(橋の骨組み)や鉄筋の製造に30年以上携わってきた、まさに鉄を知り尽く

したプロフェッショナルです。「下川の鉄工所に後継者がいないことを知り、縁のあるこの町で、自分の技術が役に立てばと思った」と、移住と承継の決意を振り返ります。

2. 先代たちの「知恵」を受け継ぐ

現在は日々舞い込む依頼を自らこなしながら、時折手伝いに来てくれる先代の職人たちから、地域に根ざした「現場の知恵」を吸収する毎日です。「大きな工場なら機械がやることも、ここでは自分の手と工夫が頼りです。パソコンを使わずに原寸で図面を引く技など、教わることは尽きません。先代の『断らずに、まずはやってみる』という姿勢こそが、下川町で信頼される秘訣だと学んでいます」と語ります。



3. 町の「困りごと」を解決する、鉄の駆け込み寺

峯本さんの仕事場には、日々さまざまな相談が持ち込まれます。「農機具が壊れた」「重機のバケットが割れた」という一次産業からのSOSはもちろん、牛舎の増築や鉄製ゲートの修繕、住宅用カーポートの製作まで、地域の事業者から住民の依頼まで多岐にわたります。「鉄に関わることなら、まずは気軽に相談してほしいですね。動かせない機械などは、道具を積んで美深などの町外の現場へも駆けつけます」事業を引き継いでまだ1年足らずですが、梅坪農機を引き継いだ峯本さんはずでに町にとって欠かせない存在となっています。

4. 「やりたいこと」があるなら、事業承継は最高の近道

自身の経験から、新しく何かを始めたい人へ「事業承継」という選択肢を勧めています。「ゼロから設備

を揃え、事業をつくるのは資金面でも体面でも本当に大変です。でも、すでにある設備や場所、そして先代が築いてきた信頼というベースがある事業承継は、やりたいことがある人にとって最高の近道になります。僕自身、この土台があったからこそ、50代でも思い切って飛び込めました。迷っているなら、ぜひ挑戦してほしいです」

5. 未来を見据えて次世代へ

峯本さんは、この事業の未来をこう描いています。「将来的には下川に住んでいる方に、この事業所を任せていきたいと考えています。今は札幌と下川、両方の仕事で基盤を作っていますが、体制を整えて、いつかは地元の担

手に引き継いでいくのが理想です」「特別な資格がなくても大丈夫です。ものづくりが好きで、意欲のある若い方に、僕が札幌や先代から引き継いだ技術を伝えていきたいですね」
30数年のキャリアで培ったプロの技を、下川の次世代へ。峯本さんの実直な仕事は、これからもこの町の産業と暮らしを支え続けていきます。

